

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200996		
法人名	特定非営利活動法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホームさやか		
所在地	神戸市西区和井取3番12号		
自己評価作成日	平成26年2月8日	評価結果市町村受理日	2014.年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成26年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

起床や臥床、入浴、食事等の時間を設定しておらず、したがって各ご利用者が一人一人自分の好きなタイミングで好きな事をして頂けている。食べ物や飲み物なども皆が同じものではなく一人一人の好みの物を選んで頂いている。ご利用者が困っている事はなにかを職員が能動的に日々の生活の中で見極め、必要な対策を早急にとっている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事はその日のメニュー以外の物が食べたい時は希望の物を準備する。食べる場所も時間も自由である。入浴についても、朝であったり、就寝前の深夜であったり、利用者の都合に合わせてできる。玄関の鍵は掛っておらず、外出は自由、利用者は一人で散歩や買い物に出かけている。利用者や近隣の住民や店の人が顔なじみになり、近所づきあいをすることによって、道に迷ったり、転倒したりした時も自然な手助けが得られている。職員は利用者の思い通りにまかせっきりではなく、細やかな気配りで寄り添い、見守る介護を行っている。また、利用者ごとのケース記録を作成し、サービス計画が利用者の生活に添ったものとなっているかを検証しやすい工夫がなされている。利用者は日々のびのびと生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、ご利用者が主体となるようタイムスケジュールを作らず、思いを尊重し個別の対応を行っている。対応等困った時は申し送りや会議で検討し合っている。	入職時に理念についての研修を行う。日常の関わりの中で目指していることについて、話し合っている。特に理念を意識しなくても、普段から当たり前のようにご利用者主体の立場に立って考えることを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回地域の清掃を職員ご利用者で行う事やイベント事で近くの保育所の園児との交流を深めたり散歩等で外出した際に近隣の方と顔見知りになる事も多い。	利用者が頻りに散歩や買い物に出かけ、近所の人と顔見知りになって、各々に約束をして、出かけたりしている。年末にカレンダーを届けてくれるなど、足を向けてくれるようになった。近隣の中学校、保育所とお互いの行事で行き来している。トライやるウィークも受け付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施し地域との理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しあんしんすこやかセンター・民生委員・ご家族・ご利用者・職員の参加でご利用者のご様子、事業所の様子など報告し意見交換を行っている。	地域に自治会がなく、地域交流が難しい。しかし、運営推進会議に民生委員に出席してもらうことで、道路状況や危険区域などの情報をもらって、地域の様子を知ることができた。家族からは掃除、衣類の整理をしてほしいなど意見が出され、改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護ご利用者に対してケースワーカーと連絡を取り合い連携が取れるよう取り組んでいる。	生活保護の利用者が数名いるため、生活保護担当者と常に連絡を取っている。区役所とは職員の移動について報告したり、神戸市の感染症状況を知らせてもらったりしている。管理者が相談に行ったり、電話でやり取りして協力関係を結んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時又定期的に研修を行い玄関も施錠せず日常の関わりの中で職員と連携し拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎年1回研修を実施している。気付かずにしてしまっていることも拘束となることを説明している。家族から要望されても、説明し、理解してもらっている。職員の負担よりも利用者の精神的弊害を考慮することによって、身体拘束ゼロを目指している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時又定期的に研修を行い職員に意識の徹底を努めている。	毎年1回研修を実施している。ケース会議やホスピタリティー会議で対応や悩みを話し合っている。アドバイスし合ったり、対応の仕方の引き出しを増やす指導をしている。管理者は抱え込まず、口に出すよう勧めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に研修はおこなっていないが必要に応じて家族様等活用できるように説明しているが全ての職員が理解しているとは思わない	管理者が理解しており、対応している。以前、利用していた人がいたので、その時、実例で学んだ経緯はあるが、研修は行っていない。パンフレットは用意している。	職員の入れ替わりがあることから、専門機関へつなぐ説明ができる程度の研修を全職員対象に行ってほしい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居のご案内をし希望があれば見学・体験も実施している。契約時時間を掛け説明し理解と納得を得ている。	管理者が行う。希望があれば体験入居もできる。利用者にも理解、納得してもらうよう努めている。生活のきまりがないことや、抑えるケアはしないこと、自由な外出に伴うリスクなども理解、納得してもらってから契約している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に不満な点などをお聞きし日々でもご利用者にも伺っている。又家族様に合わせてFAX・メール・電話などで日々の連絡や報告をさせて頂いている。	運営推進会議で聞き取ったり、来訪時に職員から話しかけるようにして聞いている。名前と顔が一致しないとの意見により、職員の顔写真を貼りだしたり、居室の掃除をしてほしいなども意見によって、改善につなげた。話しやすい関係作りを心がけている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議や全体会議など発言や提案しやすい場を設け日々の関わりに反映させている。	月1回開催されるホスピタリティー推進会議で聞き取り、ナイスアイデアボードに目標として載せて実行する。夜勤の勤務時間によって、日中の職員配置が手薄になるため、夜勤を失くして、準夜勤2名として改善を図った事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を事業所で設置し職員各自目標に対して達成できるよう意識を持つよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対して新人研修を実施し又独自で実施しているスキルアップ試験に希望者が受け各々の能力向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の居宅支援事業者と連携し交流している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話掛けご利用者の思いを傾聴し受容の姿勢を持ってニーズに応えるようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況や意見を把握し希望に沿ったサービスができるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も必要としている支援を確認し可能なサービスを提供できるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者本位の考えでご利用者の敬意の念と教えて頂くという謙虚な気持ちで関わっている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との意見交換を通じご利用者を共に支えていけるような関係を築いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の思いをふまえ馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	友人が訪ねて来たり、老人会と子供の交流会に出かけたりしている。家族と食事に行ったり、葬式、法事にも行く。長い間会っていない遠方の親戚を泊まりがけで訪ねる外出に職員が同行したこともある。家族も協力的であり、支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに気の合った方同士で会話したり関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の挨拶等を郵送させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族に希望や意向を伺い困難な場合は表情や仕草で読み取りご利用者の意思に沿う事ができるよう努めている。	入居前のアセスメントで好きな事、続けたいことを聞く。入浴時、散歩時、居室で1対1でおしゃべりしている時等に聞いている。雑談の時、何気ない一言で察することもある。横に座ることから始めて、寄り添う時間を作るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントを行い情報収集し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、申し送り表などを活用し現状を把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人職員が担当を持ち2ヶ月に1回のケース会議で発言提案しご利用者の現状に即した介護計画を作成している。	利用者の特性に応じた利用者ごとのケース記録を作成している。その記録をもとに2ヶ月に1回モニタリングを実施している。見直しは、利用者、家族の意見や往診時や訪問時に聞き取った医師、看護師の意見をもとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や申し送り表に記入し職員間で共有し対応や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス概念に捉われない方法を必要に応じて取り入れている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所や中学校との交流行事を活用し地域資源との協働を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者および家族様の希望に応じかかりつけ医の受診往診を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診の継続を優先している。24時間体制に対応できない場合は、協力医療機関の往診及び他紹介により、安心できる体制を確保している。日々の状態記録により、利用者の情報共有を図っている。月2回の認知症についての往診や歯科往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調変化時は協力医往診と隔週で来訪時報告相談している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに職員が伺い病院関係者との情報交換にも努めている。特定の病院にしぼることで病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の健康管理については、協力医と看護師の密な連携体制により、入院回避ともなっている。日常的な病院関係者との協力関係により、速やかな入院及び早期退院に向けた体制があり、認知症状の進行を抑え、利用者、家族の安心につながっている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所のできることを、できないことを説明している。終末期の対応はご利用者ご家族様の意向を確認し全職員で検討し共有し支援に取り組んでいる。	契約時での事業所の指針についての説明、重度化時での意向確認を、その都度丁寧に行い、納得した終末期を迎えられる体制を整備している。最後を家族が共にすごせ、職員も見守ることをあたりまえと捉え、家族が安心できる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習や保健所の講習を受講している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	西区消防署立会いのもとで定期的に避難訓練を実施しているが地域との協力体制を築くのは課題である。	年2回の夜間想定を含む定期消防訓練を行っている。利用者も共に避難経路の確認を行い、実践に即した内容を心がけている。喫煙場所も建物外とし、徹底させている。まだ地域との具体的な協力体制には至っていないが、来月実施の訓練には、民生委員の見学を予定している。	民生委員の見学を足掛かりとして、地域を巻き込んだ体制作りへの糸口となることを期待したい。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し法人理念に基づき個別ケアの対応をしている。	職員は、法人理念を順守した姿勢を常に心がけている。利用者一人ひとりにそった対応はもちろん、時と場所をわかまえ、周りにも気配りするように努め、それまでの状況や雰囲気にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本位の立場で自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定を設定せずご利用者の希望に沿った一日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃りの支援、気候に合った服装の支援、買い物や理容サービスを提供している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューをご利用者の意見を伺い一緒に調理や味見、準備をしている。	特にメニューは決めず、その日にある食材を見ながら、利用者と食べたい物を決め、必要であれば買物に行く。利用者自ら、調理、下ごしらえすることもあり、それぞれのペースで、食事を摂っている。職員と利用者が個別に共に食事を楽しむ風景もあり、居心地の良い雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の希望を優先しつつ栄養バランスを考えた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンや習慣に合った声掛けやトイレへの誘導を行い排泄の失敗を減らすように努めている。	利用者一人ひとりの排泄状況は把握しているが、本人の思いやり方は尊重して、適切な支援に努めている。夜間、間に合わない場合は、ポータブルトイレを設置し、できるだけ失敗を減らし、本人の負担を減らすようにもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動やマッサージ、食事を工夫する事で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間の決まりを作らずご利用者の希望に沿って入浴を楽しんで頂いている。	誰もが感じる心地良さ、ほっとくつろげる時間と捉え、入りたい時に入浴してもらっている。毎日の入浴、朝ぶる、就寝前入浴、足浴等、一人ひとりの好みに応じて柔軟な支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者ごとの生活習慣に沿った休息や睡眠の場を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用に関して職員が理解し常に服薬に関する情報を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人の生活歴に合わせた楽しみ事や気分転換の場を職員が共有している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨の日でも傘をさしてお散歩されたりご利用者の希望に沿って時には家族様に協力して頂き外出の支援を行っている。	利用者の習慣やその時の思いに応じて、買物や外出の支援を行っている。日々の散歩を日課にしている人や、一人でぶらっと出られる人、花壇や畑の手入れや水やり、精を出す人もいる。家族と一緒に外出する人もいる。希望により遠方にドライブに行くこともある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じて必要時にお渡ししたり週に1回一定の金銭をお渡しして使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご利用者が自らが電話、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い季節や気候によって室温やレイアウトの変化を付け居心地の良い空間づくりの工夫を行っている。	必要な連絡事項等の掲示はあるが、とくに目立った掲示物はなく、落ち着いた雰囲気である。キッチンオープンで作業台も広く、利用者が共に調理できる環境となっている。利用者は飲みたい飲み物や好きな食べ物を自由に手に取り、生活を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファをランダムに配置しご利用者がその時の気分に合わせて使用して頂けるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた物や衣類などを持ち込んで頂き使い慣れた物に囲まれた空間で過ごせるようにしている。	自宅にあった家具やこれまで大切にされてきたこだわりの品が、ところせましと置かれている。中には小型ピアノや楽器を持ち込み、好きな歌や演奏を楽しんでいる人もいる。それぞれの我が家となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの構造になっており安全かつ自立した生活が送れる環境作りをしている。		